

# ボランティア活動 in 南三陸町

## ※団体とプログラム紹介

今回参加した活動は、**ユナイテッド・アース**という社会貢献共同体が行われている活動でした。この団体は、社会活動家や学生など理念に共感する市民が集い、共に社会貢献活動をするための団体です。

そして、今回参加したのは、「南三陸町復興学び」の一泊二日のプログラムでした。プログラムの主な流れは、一日目は被災地の視察で、スタッフが説明しながら南三陸町を回りました。二日目はボランティア活動で、「金比羅丸」という漁業会社の支援でした。

## ※もし…しなければ…

### 1. 戸倉小学校

震災前：宮城県本吉郡南三陸町戸倉字  
沖田 18 番地

現 地：宮城県本吉郡南三陸町志津川  
字城場 41（志津川小学校内）



ボランティアに参加する目的の一つは、日本の防災知識を学ぶことです。プログラムの一日目に、最初の場所から、沢山の大切なことを学びました。

2011年3月11日東日本大震災が起こった日の二日前、9日にもマグニチュード7の地震があり、学校の皆さんは避難場所に、校舎三階の屋上に避難しました。幸いなことに、皆は無事でした。



この写真は、土の高台が見えるだけかもしれませんが、こちらは戸倉小学校と保育所の跡地です。

ちなみに、南三陸町は、地形と臨海のため、津波の起こりやすい地域だと言われて、常に避難訓練を行っているし、皆の防災意識が高いです。戸倉小学校もそうです。良い避難場所の位置については、先生たちもよく討論しているし、地震があった時、学生たちは冷静で自動的に防災用品を持ち、避難場所へいきます。



この写真は、小学校の正面にあって、樹林の左側は宇津野高台です。

この日に避難が無事に終わり、「校舎屋上には本当に大丈夫か？」とある先生がこういう疑問をし、先生たちはまた討論しました。

そして、討論した結果、避難場所は学校の近くにある宇津野高台に変わり、翌日すぐに新たな避難場所への訓練を行いました。

2011年3月11日、大地震が起こり、皆は前日の訓練の通り、新しい避難場所に移動しました。そのすぐ後、短時間に全て水没していました。

当時の避難した人々が、ちょうど右の写真のシーンを見ました。今見ると、海がすごく静かですが、当時の人々は、一体どんな気持ちで津波を見たんだろう。



この写真は、宇津野高台で撮った写真です。真ん中は小学校で、すぐ側は海です。



この写真は、高台にある記念碑です。

今高台に記念碑が建てられています。そこに書いたのは、「未来の人々へ、地震があったら、この地よりも高いところへ逃げること」です。ということで、津波は高台まで、押し寄せました。ですから、皆はもっと高いところ、樹林の中にある五十鈴神社の境内に避難しました。

皆は、その中に泊まりました。その時まだ雪が降って、寒い一晩でしたが、皆が歌いながら、励まし合いました。

もし、大地震が起こった前日に避難場所を変えなければ、小学校と保育園の皆は多分また校舎屋上に避難していたかもしれません。



この写真は、神社の境内で撮った写真です。当時津波が鳥居まで押し寄せました。

## 2. 高野会館

所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字  
汐見町 32-1

高野会館は、南三陸町の有名な総合結婚式場「高野会館」で、4階建ての建物で、広い式場です。



2011年3月11日、大地震があった日にも、たくさんの結婚式とイベントなどが行われていました。地震が起こった後、皆は慌てて外へ逃げようとしたのですが、会館の従業員たちは、出口の前に立ち、手を広げ、仁王みたいな動作で、皆を止めました。

「もし生きたかったら残れ」、「外へ行ったら津波に遭遇してしまう」と判断しながら、皆に言いました。



この写真の建物は、南三陸町の有名な総合結婚式場「高野会館」です。



この写真の建物一階の左側は、会館の出口です。従業員たちは、こちらに立ち、手を広げ、300人ぐらいのお客様を止め、たくさんの命を救いました。

逃げていた皆がそれを聞くと、少し落ち着くとなり、従業員の誘導に従い、会館の屋上に避難しました。約300人がいましたが、お年寄りの人が多かったので、体力のある人がお年寄りを背負い、屋上に上がりました。

その後、津波が押し寄せてきました。屋上に避難した人たちの膝まで、水が来ました。幸いことに、それ以上に上がらなかったです。

もし、従業員たちが出口に立たなければ、皆が外へ逃げたら、津波に遭遇したかもしれません。

### 3. 防災対策庁舎

所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩  
入 77

防災対策庁舎は、南三陸町の行政庁舎の一つです。本所には、行政第 1 庁舎、行政第 2 庁舎、そして防災対策庁舎が隣に接して建てられていました。



「大津波警報が発令されました。高台に避難してください。」これは地震が起こった時、南三陸町の防災対策庁舎から、ずっと放送されていた呼び掛けです。

この呼び掛けをした人は、庁舎に働いた職員遠藤未希さんです。未希さんのおかげで、多くの命が救われました。

遠藤さんは、津波が庁舎に襲われた最後まで、ずっとマイクを握り、庁舎の二階で、繰り返し呼び掛けしていました。

「はやく避難しよう。」と上司の指示で、まだ庁舎に残った職員たち約 20 人と一緒に屋上へ避難しました。

ですが、津波が屋上まで押し寄せました。波が引くと、最後は 10 人になってしまいました。遠藤さんも犠牲になってしまいました。

もし、その時、遠藤さんの呼び掛けがなければ、近所の住民たちは、速く避難が出来なかったかもしれませぬ。

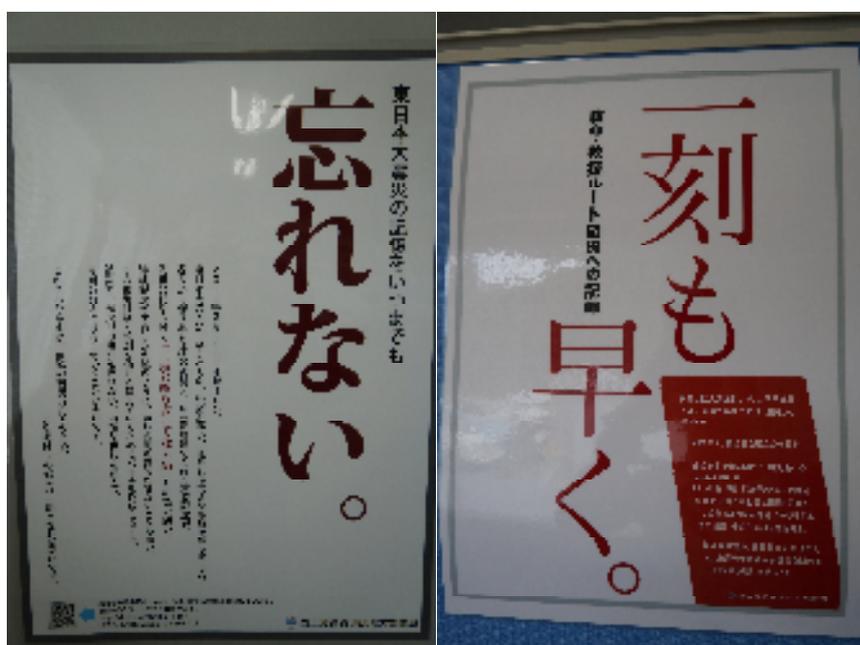


## ・感想

以上の三つの語り合いから見れば、これは日本人の防災の知恵だと思います。

地震に対して、冷静に秩序正しく反応し、決断が速いことで、たくさんの命が救われました。

台湾もよく地震が起こっていますが、日本と比べると、防災についてはまだまだです。避難訓練はあまりしていないし、避難場所の情報などもあまり宣伝していません。また、台湾も海に囲まれています。地震によって起こされる津波はあまりないので、津波避難所もほとんどありません。それらの事から見ると、台湾はまだまだ、いっぱいのが日本から学んでほしいです。



この二つの写真は、「南三陸さんさん商店会」にある「南三陸まちづくり情報センター」で撮った写真です。今回視察した時、たくさんの語り合いから学んだことの中に、大切なのは、「教訓を忘れない」、「一刻も早く」とのことです。台湾もいっぱいのが日本から学んでほしいです。

## ※ボランティア活動

所在地：宮城県本吉郡南三陸町歌津泊浜 101

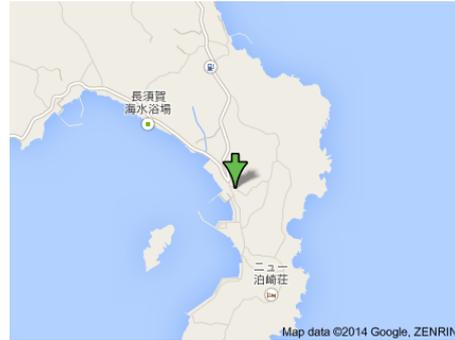
「南三陸ブルーツーリズム金比羅丸」

ホームページ：<http://konpiramaru.main.jp/index.html>

二日目はボランティア活動でした。今回は「金比羅丸」という養殖場で、ホタテの養殖準備作業の手伝いしました。

手伝った漁家は、大企業ではなくて、家族経営の会社なので、復興作業も比較的遅いからこそ、皆の手伝いが必要です。

夏はホタテの旬なので、今回は縄の準備の手伝いをしました。ホタテ専用な機械で、ロープにピンを刺す作業でした。ホタテに穴を開けたら、このピンの両側に刺して育てます。



この写真は、金比羅丸の養殖準備場所です。津波により壊されましたが、建て直した建物です。



この写真は、ホタテ専用な機械です。今回私はただ1千回しましたが、もっともっと思いたいと思います。

もともとは、この作業が機械で自動的にできましたが、機械は津波のせいで、壊れてしまいましたので、手作りするしかありません。この簡単そうな作業ですが、30万回がいきます。

もし手伝いがなければ、経営者は一人でどうやってできるのだろうか。

その日、経営者は海に行ったり帰ったりし、忙しかったので、あまり会話が出来なかったのですが、地震が起こった当日で撮った写真を見せていただき、冗談しながら説明していただきました。町の復興がまだまだですが、人の心は少し前向きに復興に向けて頑張ってきたと感じました。



この写真は、ピンを刺し、完成したロープです。

## ・これからは

これからは、今回参加したプログラムで見たことと聞いたことを細かくまとめ、中国語と日本語で、できれば英語でも、ブログに書きたいです。東北に関心がある皆にシェアし、手伝いした漁家も宣伝し、もっともっと多くの人が東北へ行き、支援したりし、もっともっと復興作業が速くできればいいなと思います。

## ・感謝

日本へ留学に来て、三年前の事を思い出して、日本にいるうちに、実際に東北に行って、ボランティアに参加したかったですが、学校や就活などのため、なかなか進まなかったです。その時、「まんまる会」に出会って、夢を実現させて頂きました。長い時間をかけてしまいましたが、「まんまる会」の皆さんがずっと応援していただきました。「まんまる会」の皆さんに、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

